

▼ブラジルの厚生ホームの職員と平木さん



日本と開発途上国を結ぶ架け橋として、現地でボランティア活動を行う「青年海外協力隊」に平木さんが参加したのは、ちょうど20年前になります。大学を卒業した後、特別養護老人ホームで働いていた平木さんは、自身を見つめ直したいという思いから「青年海外協力隊」に応募しました。開発途上国からの要請に基づき、それ

に見合った技術・知識・経験などを生かしたいと考える人が派遣されるJICAのボランティア事業です。選考を突破し、約3カ月間に及ぶ厳しい語学漬けの訓練を終えた平木さんが派遣されたのは、南アジアのインド半島の南東に位置するスリランカ。当時まだ内戦の残るこの地で、現地の老人施設でのボランティア活動がスタートしました。

日本語が通じないのはもちろん、何か人びとのために動きたくてもなかなか思うようにさせてくれない開発途上国の貧困な環境。どうすれば地域の人らしい生活を支えられるか。そんな中で、平木さんは施設の利用者とともに畑を作ったり、井戸を掘ったりと、福祉の垣根を越えて絆を深め、精

力的に活動しました。また平成21年、平木さんは「日系社会シニアボランティア」の隊員として、今度はブラジルに赴きます。現地の養護老人ホームで、日本から移住した高齢者の援助を二年間行いました。中には岩国市出身の利用者もおられ、地球の真裏で聞く岩国の方言に親近感を覚えたといいます。「人のためにというよりは、自分が成長させてもらっていました」平木さんは2度の海外派遣をこう振り返ります。同じ隊員や、現地の人びとの多くの出会いも、また、その出会いによって乗り越えてきた苦難も大きな財産。当時1歳だったスリランカの下宿先の娘さんからは今でも手紙が届くそうです。「人との出会いが大好きです。今度は私が人と人をつなぐパイプ役になれたらいいな」と、平木さんは素敵な笑顔で語ってくれました。



▲スリランカの老人施設で活動する平木さん



▲スリランカで畑作り



人を助け 人に助けられる

Vol.50

平木 てる子さん
(柱野在住)

JICA ボランティア事業の下、スリランカやブラジルに赴き、現地の福祉施設のスタッフとしてボランティア活動を行う。

